

請願 第41号

受付 令和元年10月30日

付託 令和元年11月29日

継ぎ接ぎによる名ばかりの取手駅バリアフリー化計画を中止し
橋上駅舎方式の合理的平滑的電車乗降移動が可能なバリアフリー化計画を進める請願

紹介議員 細谷 典男

・請願趣旨

取手市は約2,850万円の設計予算を投じ、取手駅で継ぎ接ぎだらけの名ばかりのバリアフリー化計画を進めようとしています。取手駅東口から入場した乗車客を、エレベーターで1・2番線ホームの端に上げ、更に3～6番線ホームへは同ホーム反対側のエレベーターで改札階の通路を通し、各ホーム向けの階段・エレベーター・エスカレーターを使い各ホームへ降りる難解なものです。1・2番線ホームで事足りる乗客は良いのですが、3～6番線ホームを使う乗客はエレベーター間の距離を余分に歩かされる。歩行距離は2倍位にはなります。取手駅西口改札階への移動及び藤代駅南北口からの改札階への乗客移動は、圧倒的にエスカレーター利用が多いです。ところがこの計画には、エスカレーター設置は入っていません。最近話題の生産性が極端に低い計画です。

取手市の高齢化率は10月1日で33.92%。3%程の身体障がい者の11倍以上います。藤代駅は県内JR乗降客14番目の駅です。ほとんどを南北口エスカレーターで賄っています。取手駅は県内JR乗降客2番目の駅です。その片方の改札口からの入場を1台のエレベーターに託すのでしょうか。この子供騙し計画でも、駅の3階に上がれることで満足出来るのは、単独で移動できる電動車椅子ユーザーだけでしょう。段差が無くなれば水平移動距離が倍だろうが3倍だろうが、関係ありません。モーターが回るだけですから。しかも取手市内で単独行動可能な電動車椅子ユーザーは、請願者を含め15人程です。しかも、車椅子の電車乗降にはガイドが必要になります。降車係員との段取りが必要になります。取手駅東口は無人のため不可能です。正に子供騙しです。この計画主案者の応用力の低さが露呈されるものです。設計費と言っても、全て税金で賄われるものです。

・請願事項

取手市は継ぎ接ぎによる名ばかりの取手駅バリアフリー計画を中止し、取手駅橋上駅舎型バリアフリー計画を策定推進すること。

令和元年10月30日

請願者代表

住所 取手市宮和田 985-19

氏名 齊藤 たかし ほか223人

取手市議会議長 殿